

病院名	市立宇和島病院						
所在地	宇和島市御殿町1番1号						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		426	—	—	5	4	435
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
		20	406	—	—	426	
診療科目	内科、消化器内科、胃腸内科、肝臓内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌内科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺外科、肛門外科、整形外科、リウマチ外科、脳神経外科、脳・血管外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科（計34科目）						
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・宇和島構想区域の基幹病院として、がん診療連携拠点病院、南予救命救急センター、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、災害拠点病院など多岐にわたる機能を維持し、地域医療の核として必要な医療を提供する。 						
将来像 (平成37年)	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域全体として、高度急性期病床の増床（120床が目標）が求められているため、必要な医療従事者数の確保などの課題解消に努め、急性期病床からの転換を前向きに検討する。 ・国の施策に沿って、病院完結型医療から地域完結型医療への転換が進み、圏域内の基幹病院として中心的な役割を担う。 						
地域包括ケアシステム の構築に向けて果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療における緊急時の後方支援など、地域の医療機関との機能分化を図りつつ、介護関係機関とも連携を図りながら地域の中核病院としての役割を担っていく。 ・地域のかかりつけ医との連携を強化していくことで紹介患者を増やしていくほか、逆紹介も積極的に行っていくことで、宇和島市が目指す「地域包括ケアシステム」の構築にも寄与していく。 						

病院名	宇和島市立吉田病院						
所在地	宇和島市吉田町北小路甲217番地						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		(96)52	(48)48	—	—	—	(144)100
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	※()内は許可病床、右は稼働病床
		—	—	(96)52	(48)48	(144)100	
診療科目	内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、循環器科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、歯科、麻酔科（計12科目）						
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、建物の老朽化、医師不足等により経営は厳しいが、公立病院として、今後も入院機能を維持していくことが果たすべき役割の一つである。 ・地域医療構想に沿うよう慢性期（療養）病床を現在より少なくする方向で病棟編成を進めながら、それが効率的に機能するよう、今後はより一層他機関との連携を強化し、地域包括ケアシステムの充実を図る。 ・市立宇和島病院と連携し、高度急性期治療後の患者の受け皿となり、在宅復帰に向けた医療及びリハビリテーションなどの支援を行う。 ・外来診療においては、吉田地区のかかりつけ医として、また必要な場合は中核病院である市立宇和島病院に患者を紹介するなど、ハブ的役割を果たす。 						
将来像 (平成37年)	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田地区においては、入院機能を備える数少ない病院であり、今後も入院機能を維持する。 ・市立宇和島病院との連携により、ポストアキュートの患者を受け入れ、サブアキュート及び在宅復帰支援機能を高めることにより、吉田地域における地域包括ケアシステムの一翼となることを目指す。 						
地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、地域連携室において入退院時連携や退院支援を行っている。今後はさらに、地域包括支援センターや他の医療機関・施設と連携を強化し、病院機能に応じた在宅復帰支援を行う。 ・吉田地域の医療資源の最適化を模索しながら、医療と介護の情報共有を進め、更にネットワークとして一つにつなげる役割を担っていく。 						

病院名	宇和島市立津島病院						
所在地	宇和島市津島町高田丙15番地						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		(88)60	(45)45	—	—	—	(133)105
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	※()内は許可病床、右は稼働病床
—		(88)60	—	(45)45	(133)105		
診療科目	内科、外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、循環器内科、脳神経外科、皮膚科、心療内科、神経内科、放射線科、整形外科、リハビリテーション科（計14科）						
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・市立宇和島病院との連携により、高度急性期治療後の患者の受け皿として、在宅復帰に向けた医療、リハビリテーション等の支援を行う。 ・地域医療構想において慢性期病床の縮小が求められているため、規模の見直しを検討していく。 ・訪問診察、訪問看護、訪問リハビリテーション等の往診による在宅医療を提供していく。 						
将来像 (平成37年)	<ul style="list-style-type: none"> ・津島地区においては入院機能を備える数少ない病院であり、今後も入院機能を維持する。 ・救急患者の受入を維持しつつ、地域包括ケア病棟を充実させ、慢性期及び回復期の患者の在宅復帰支援を行う。 						
地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・現在設置している「地域連携室」において、入退院時連携や退院支援を行っている。今後は体制を拡充し、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。 						

病院名	独立行政法人地域医療機能推進機構 宇和島病院						
所在地	宇和島市賀古町2丁目1-37						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		199	—	—	—	—	199
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
		—	101	98	—	199	
診療科目	内科、循環器内科、糖尿病内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、神経内科、心療内科、放射線科、麻酔科（計10科）						
役割	<p>・病床数199床（回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟を含む）の急性期中小規模病院ではあるが、健康管理センター、介護老人保健施設、訪問看護ステーションを併設している。これらの組織を効率的に運用し、疾病予防・健康の保持増進、入院から在宅までシームレスな医療・看護を提供している。即ち、地域包括ケアの中心的存在としての役割が求められている。また、救急医療においては病院群輪番制を担う一病院としての役割を維持していく。</p>						
将来像 (平成37年)	<p>・本医療圏における他の医療機関やその周辺の医療環境と当院の状況を総合的に勘案すると、現状の急性期病床101床と回復期病床98床を併せ持ち、かつ介護老人保健施設や訪問看護ステーションを活用した診療体制で在宅療養にも貢献できるシステムの維持が望ましいと考える。</p>						
地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	<p>・地域包括ケア病棟の制度が開始された平成26年度より、病床機能の適正化を先取りする形で10対1病棟を地域包括ケア病棟に転換する病棟再編を実施し、地域包括ケアシステムの実現に向け貢献している。</p>						

病院名	鬼北町立北宇和病院						
所在地	北宇和郡鬼北町近永455-1						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		(55)46	(45)34	—	—	—	(100)80
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	※()内は許可病床、右は稼働病床
		—	(55)46	—	(45)34	(100)80	
診療科目	内科、小児科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、リハビリテーション科、リウマチ科（計7科）						
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・内科、整形外科を中心としたプライマリケアの提供を行うとともに、適切な病床機能の転換、入院患者の受入れ、在宅医療を支えるための拠点的役割を果たすなど、地域の医療ニーズに応じていく。 ・高度医療が必要な患者に対しては、市立宇和島病院を主要連携先として受入れを要請し、対応していく。 ・医療情報の共有化を図るため、「きさいやネット」等の地域医療情報連携ネットワークを活用するなど、急性期病院との連携体制を強化し、急性期患者の紹介、回復期患者の受入れを積極的に行う。 ・二次救急医療体制として、当院が近隣の医療機関と協力して救急医療体制を支援する施設となっているが、特に夜間における救急は、医師不足や検査体制を整えることが困難なことから、一次救急としての機能を果たしていく。また、高次救急については、従来どおり二次保健医療圏内の市立宇和島病院及びJCHO宇和島病院等を中心に連携して対応していく。 						
将来像 (平成37年)	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼北町をはじめとする一次医療圏域における公的な基幹医療機関として、外来・入院機能を維持しながら内科、整形外科を中心としたプライマリケアの提供を行うとともに、入院患者の受入れや在宅医療を支えるための拠点的役割を果たすなど、今後の医療政策に合致した適切な規模の病院として、地域住民の医療ニーズに対応する。 ・当院の病床数は、一般病床（急性期）55床と療養病床（慢性期）45床の計100床であり、地域医療構想では共に削減の必要性が問われていることから、既存の地域医療情報連携ネットワークを活用することで急性期病院との連携体制を強化し、現在の外来・入院機能を維持しながら地域の医療ニーズに合わせた適切な病床機能の転換について取り組む。 ・北宇和病院だけでは担えない機能は、他の医療機関等との連携によって補完する。 						
地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年4月に設置した「地域連携室」により、主に入院患者の入院・退院から在宅での生活支援までカバーできるように、また患者の紹介や逆紹介などの役割を果たせる体制づくりを構築しているが、今後も病院、訪問看護ステーション、南愛媛病院、民間介護事業者及び町保健介護課（地域包括支援センターを含む。）など関係機関との連携を密にし、北宇和病院が医療・介護・福祉・保健の中心的医療機関としての役割を果たしていく。 ・在宅医療の提供を含む包括ケアシステムを日常生活圏域の中でこれまでの生活との継続性をもって実現するためには、各々のかかりつけ医がその力を在宅医療の分野で十分に発揮することが重要であり、多くのかかりつけ医の参画を得られるよう、地域医師会と協働することにより、面的な提供体制を整えることとする。 						

病院名	愛南町国保一本松病院						
所在地	南宇和郡愛南町一本松5056番地2						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		—	60	—	—	—	60
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
		—	—	—	60	60	
診療科目	内科、外科、リハビリテーション科（計3科）						
役割	<p>・地域医療構想では、慢性期病床削減が決定されているが、愛南町内では、長期治療の必要な患者を受け入れることのできる療養病床は当院のみの60床となっており、療養病床を可能な限り維持することが当院の果たすべき役割だと考えている。また、現在の診療科目、訪問診療についても、かかりつけ医など安定的な医療を提供するため維持に努める。</p> <p>・町で唯一の二次救急医療機関である県立南宇和病院の医師不足が深刻な状況の中、当院医師が宿直等の業務支援に携わり、県立病院医師の業務負担の軽減や住民の医療に対する不安の解消に努める。</p>						
将来像 (平成37年)	<p>・平成32年度以降においても、現在の医療体制の維持を図り、二次救急医療機関である県立病院との連携、宿直等の業務支援の継続における医師の業務負担の軽減や住民の医療に対する不安の解消に努める。</p>						
地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割	<p>・在宅療養支援診療所である附属内海診療所との連携強化及びバッグベッドの確保等における在宅療養支援体制を維持する。</p>						

病院名	愛媛県立南宇和病院						
所在地	南宇和郡愛南町城辺甲2433番1						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		(199)120	—	—	—	—	(199)120
	一般・療養病床の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	※()内は許可病床、右は稼働病床
—		(199)120	—	—	(199)120		
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科（計17科）						
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立病院は、救急医療や周産期医療、災害医療などの採算性が低く民間病院では実施が困難な政策的な医療を担っているほか、地域の中核病院として、心疾患、脳疾患などの急性期医療を提供する役割を期待されている。 ・ 少子高齢化の急速な進行や医師不足の深刻化等、地域医療を取り巻く環境が厳しい状況のなか、地域における県立病院の役割は更に重要となることから、地元医師会等の関係機関等と連携を図り、地域における県立病院の果たすべき役割を明確にする。 						
将来像 (平成37年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急等の急性期医療から在宅医療（地域包括ケアシステム）の支援までを県民に提供する愛南地域の中核病院。 						
地域包括ケアシステム の構築に向けて 果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立病院の役割は、地域における急性期医療を担うことであるため、今後、想定される「地域包括ケアシステム」構築の際にも、「地域包括ケアシステム」における高度急性期・急性期の医療機能を担う必要がある。 ・ 県内の他圏域よりも高齢化が進んでいる宇和島圏域にある県立南宇和病院では、既に地域包括ケア病床を整備・運営している。 						

愛媛県立病院中期経営戦略の概要（南宇和病院）等について

1 愛媛県立病院中期経営戦略策定の経緯

平成27年3月に総務省が『新公立病院改革ガイドライン』を策定し、平成27年度又は平成28年度に、新改革プランを策定することが求められた。

このため、愛媛県では「県立病院機能強化検討委員会」を平成27年4月に設置し、県立4病院の今後進むべき方向性や役割のほか、経営の健全性等の機能強化方策について検討を行い、地域医療構想を踏まえた役割の明確化などを含めた議論を行い、平成28年3月に「愛媛県立病院中期経営戦略」（期間：28～32年度）として策定した。

2 目指すべき病院像と主な取り組み（抜粋）

○県立南宇和病院

救急等の急性期医療から在宅医療（地域包括ケアシステム）の支援までを県民に提供する愛南地域の中核病院

【主な取り組み】

①政策医療の強化

- ・24時間救急医療体制の維持のため、継続した医師確保及び地元医師会等による応援体制の維持
- ・ドクターヘリを活用した救急医療体制の強化

②地域医療機関との連携強化

- ・市立宇和島病院の「きさいやネット」への参加
- ・地元患者の受入病院（後方ベットの役割）としての機能強化
- ・愛南町等と連携した地域包括ケアシステムの構築
- ・地域包括ケア病床の効率的な運営

③医師及び看護師の確保・人材育成機能の強化

- ・地域包括ケアシステムに必要不可欠な総合診療医や、新たな専門医制度に向けた指導医の確保
- ・在宅療養支援の強化等に向けた看護師の育成

④4病院の連携促進等による機能強化

- ・中央病院のシステム更新に合わせた電子カルテシステムの導入検討
- ・遠隔医療の導入検討

⑤経営の効率化

- ・地域包括ケア病床の効率的な運営【再掲】
- ・適切な診療報酬請求事務の推進
- ・後発医薬品の使用拡大

【平成29年度病床機能報告について】

	現在 (H29年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0床	⇒	0床
急性期	199床		199床
回復期	0床		0床
慢性期	0床		0床
(合計)	199床		199床